

もっと
まちなかを好きに!

僕の私の まちなか 対談

平成28年度は生徒たちの手で、まちなかの問題を解決したり、まちなかの魅力を高める取り組みを行ったりました。これらの活動を通して、彼らはどのようなことを感じたのでしょうか。



▲生徒たちの手でまちなかの課題を解決した「まちなかみんなのベンチ」プロジェクト



▲イベントを企画してまちなかの魅力を高めた「Happy Halloween Festa」



まちなか再生主幹
武田 涼一

昨年夏に技能士など多くの方と協力して、まちなかに木製のベンチを作った「まちなかみんなのベンチ」プロジェクト。皆さんの提案がきっかけで開催された「Happy Halloween Festa」。これを通して、皆さんのまちなかやまちづくりに対するイメージは変わったのではないのでしょうか。感想を聞かせていただけますか。



安達 景祐さん

「まちなかみんなのベンチ」プロジェクトに参加しましたが、ベンチ製作は授業でもあまり行わない作業だったので、とても面白くてやりがいがありました。最近では駅に行くたびにベンチのことが気になり、人が座っているか見てしまいます。そうしてまちなかを見ていくと、思ったよりもまちの課題がいっぱいあるなと感じました。まちなかにもっと人が増えてくれたらうれしいです。



内山 智仁さん

ベンチの製作では技能士の方から技術を教えてもらいましたが、木材の接合部分を作る作業が特に難しかったです。普段関わることができない人や職人さんのお話を聞くことができ、勉強になりました。こういう取り組みに参加しないと気付かない問題もあり、とても良い経験になったと思います。今のまちなかは全体的に暗いイメージがありますが、これらの取り組みでまちなかがもっと明るくなれば、人も歩くよくなると思います。



山中 葉月さん

「Happy Halloween Festa」では、苦小牧駅がハロウィン一色に装飾され、自分でも考えられないくらいの大勢の人たちがイベントに参加してくれて、地域貢献ができたことにとっても達成感がありました。今まで、まちづくりについて考えたことがなかったのですが、このイベントを通じて、もっとまちのために役に立ちたいと感じました。最近では、地域のものを使って商品化するなど、活性化のために協力できるアイデアを探しています。



高橋 陽香さん

最初はすごく不安だった「Happy Halloween Festa」ですが、終わってみるととても楽しかったです。これまで学んできた接客の仕方などを生かすことができたと思います。また、たくさんの人たちとの関わり、さまざまな経験をする中で、自分自身も成長できたと思います。ぜひ、皆さんにも体験してほしいです。まちなかが人でにぎわうような取り組みに今後も参加していきたいです。



まちなか再生主幹
武田 涼一

4月からはよいよCAP3が始まります。子どもや子育て世代、若い皆さんと連携して、新たな人の流れをつくりながら、明るいまちづくりを目指していきたいと思っています。皆さんもぜひ参加してくださいね。本日はありがとうございました。

CAP
2

人材育成と
ネットワークの強化

平成26年度～平成28年度

■COCOTOMA (PLTMA)
市民の皆さんに地域情報を発信し、憩いと交流、文化活動の場として、たくさんの方々にご利用いただいています。

■まちゼミ事業

まちなかにあるお店の魅力を知らせてもらうため、店主やスタッフが講師となって、プロならではの専門的な知識や情報、商品を選ぶコツなどをお伝えするまちゼミ(得するまちのゼミナール)を開催しました。



■まちなかクリエイティブラボ(まちラボ)
各事業の相乗効果を図ることを目的に、各施設、イベント間での連携を図り、市、大学、各商店街、民間事業者などと連携して、まちなかクリエイティブラボ(まちラボ)を設立しました。



■まちなか居住支援事業

まちなか居住の推進を図ることを目的に、苦小牧市賃貸住宅建設補助金制度を創設して、民間事業者に対して賃貸住宅建設の支援を行いました。